

精神医学講座

教授：中山 和彦	精神薬理学, てんかん学
教授：伊藤 洋	精神生理学, 睡眠学
教授：中村 敬	精神病理学, 森田療法
教授：宮田 久嗣	精神薬理学, 薬物依存
准教授：須江 洋成 (兼任)	臨床脳波学, てんかん学
准教授：忽滑谷和孝	総合病院精神医学
准教授：山寺 亘	精神生理学, 睡眠学
講師：小曾根基裕	精神生理学, 睡眠学
講師：小野 和哉	精神病理学, 児童精神医学
講師：大淵 敬太	精神生理学, 睡眠学
講師：塩路理恵子	森田療法, 精神病理学
講師：館野 歩	森田療法, 比較精神療法
講師：伊藤 達彦	総合病院精神医学, 精神腫瘍学
講師：中村 晃士	精神分析的精神医学, 児童思春期精神医学
講師：角 徳文	老年精神医学

教育・研究概要

I. 精神病理・精神療法研究会および児童精神医学研究会

我々は、精神療法と精神病理学的研究、および児童精神医学分野の研究を施行している。我々は精神科外来における発達障害の治療システムの研究している。また、発達障害と精神障害に共通する「注意障害」に関してその相違の研究を開始した。この結果、自閉症スペクトラムでは一つのことに集中を維持する機能は保たれるものの、いくつかのタスクが加わると、注意・集中の維持が困難になる傾向があることが明らかになってきた。精神療法では、従来より研究してきたDBT（弁証法的行動療法）の日本での汎用化のための技法の開発とその実践、また発達障害に関する構造化治療法である日記療法、および自己肯定感を高めるためのPsychotherapeutic Approach (SPPA)を開発中である。さらに、発達障害への精神分析的治療の可能性を探索している。我々の社会精神医学的研究チームはホワイトカラーの就労者における「うつ」の要因について研究を施行している。この研究では、男性は、職場での過剰適応傾向がその完全主義的性格傾向を背景に強く、うつと結びつきやすい事。一方女性では、関係性においてのとらわれが、完全主義的傾向を背景に、職場においても家庭においても展開し、疲弊すること

でうつと結びつきやすいことが、明らかになった。

II. 森田療法研究会

森田療法と、アクセプタンス・コミットメント・セラピーやマインドフルネス認知療法などの“第三代”の認知行動療法との比較研究を推進し、いくつかの学会で発表した。また最近、森田療法をトラウマのストレスやPTSD、疼痛性障害、嘔吐恐怖に積極的に適用し、臨床報告を行っている。さらに今年度も強迫性障害のサブタイプに関する研究、社交不安障害の精神病理学的研究、入院森田療法におけるうつ病の回復要因についての研究を継続した。

III. 薬理生化学研究会

基礎研究では、げっ歯類を用いた1) 脳内透析法およびラジオイムノアッセイ法を用いた新規向精神薬のモノアミン神経伝達への影響に関する研究、2) 薬物依存の形成機序に関する研究、3) 薬物依存に関連する衝動行為の神経基盤に関する研究および、4) 薬物依存に対する抗渴望薬の開発に関する研究を行った(2, 3, 4はNTT Communication 科学基礎研究所と専修大学大学院文学研究科心理学部門との共同研究)。臨床研究では、1) 非定型抗精神病薬の不安、ストレス関連障害への効果に関する研究、2) positron emission tomographyを用いた抗精神病薬のドーパミン神経伝達に与える影響に関する研究(放射線医学総合研究所との共同研究)、3) 気分障害を診断する新規血液バイオマーカーの探索研究(ウイルス学講座との共同研究)、4) 修正型電気けいれん療法の奏功機序にかかわる遺伝子発現調節因子に関する研究、5) 月経関連症候群、非定型精神病、急性精神病の病態に関する研究を行った。薬理生化学研究会では、基礎と臨床を統合した研究を目指している。

IV. 精神生理学研究会

1) 睡眠薬の適正使用および減量・中止のための診療ガイドラインに関する研究、2) 慢性不眠症あるいはうつ病の不眠症状に対する認知行動療法の有効性に関する研究、3) 多回睡眠潜時測定(MSLT)所見からみた中枢性過眠症に関する臨床的検討、4) 客観的疲労評価測定による睡眠障害の重症度評価に関する検討などを継続あるいは新規に着手した。

V. 老年精神医学研究会

認知症患者にVSRADとvbSEEによる解析を加えた脳画像検査と神経心理検査を行い、認知症の重

症度、疾患分類などと画像検査との関連を検討した結果、反応抑制課題と海馬容積の低下が示された。認知症の長期予後研究では、認知症の原因疾患や介護保険の利用の有無では生命予後への影響はなかったが、介護保険による受給額は、血管性認知症でアルツハイマー型認知症よりも高額であった。また、外科との共同で「癌患者における精神障害」の疫学研究を行い、乳癌患者での精神障害の有無、精神症状の程度、背景因子との関連、身体疾患との関連などを調査した。

VI. 総合病院精神医学研究会

うつ病の再発予防教育では、ビデオ教材をスライド化し、より柔軟に患者のニーズに対応した。効果判定の心理検査では、認知・行動・感情の3側面と総合的なパーソナリティの測定に加え、うつ病の寛解期における睡眠状態を把握する目的で、新たに睡眠評価尺度も取り入れた。また、最近増加しているパーソナリティの未成熟性や偏りが存在する症例や双極性うつ病にも対応するプログラムを検討した。末期患者に対する終末期医療（緩和ケア）では、癌センター東病院との数年来の共同研究により、がん患者、その家族、および遺族の心理的課題に関する研究を行った。さらに、入院患者やスタッフから要請を受けて、臨床心理士を中心とした精神科スタッフがメンタルサポートを開始した。

原発性消化器がんの術後せん妄のリスクファクターに関する研究を行っている。

VII. 臨床脳波学研究会

臨床的に興味深い症例については随時報告を行ってきたが、本年度は貴重と思われる環状20番染色体症候群の治療経験および文献的考察を学会誌に報告した。また、日本てんかん学会では高齢発症のてんかん発作に関連して躁状態を呈した例についての報告がなされた。進行中の研究として、健常成人女性の月経周期中における脳波背景活動の変化、てんかんに病む女性における各種性ホルモンの動態及びその電気生理的影響に関する研究あるいは精神症状を有するてんかん患者の背景脳波活動の定量化およびMRI画像定量解析が挙げられる。

VIII. 臨床心理学研究会

2012年度も心理療法の技法の向上を図るために、症例検討を継続して行った。また、認知行動療法、森田療法、緩和ケア、サイコオンコロジー、災害時のこころの支援などのさらなる学習を行った。心理

テストについては、発達障害、高次脳機能障害を中心に研究をすすめた。慈恵心理臨床の集い（研究会）では、森岡 周先生を招聘し、「社会的コミュニケーションの神経科学」についてのご講演を賜り、「社会脳」に関する科学的知見の臨床への応用を学ぶことができた。このような臨床・研究活動のみならず、心理研修生を受け入れ、心理学的教育に積極的に取り組んだ。

「点検・評価」

2012年度においても、9部門の研究会からなる研究活動を行い、基礎的研究から臨床研究まで幅広い方法論で研究活動を行った。このことは、脳科学から精神療法まで幅広い知識が必要とされる精神科治療を実践するに際して望ましい研究体勢にあるといえる。本年度は、これに加えて、児童期から老年期まで幅広い疾患に対して、それぞれの研究会が専門外来を開設したり、異なった研究班が共同して研究活動や治療体制を設けるようになった。このことは、医学科における研究と臨床のあり方として望ましく、また、教育の観点からも良好な効果が期待される。研究活動においては、従来通り、それぞれの研究会が積極的に研究費を獲得して研究を行い、活発な学会発表がなされている。しかし、原著論文、特に、学術的に権威のある国際誌などへの投稿は多いとはいえず、今後、より厳密な研究計画に基づいた独創的な研究が求められる。さらに、各研究部門での独立した研究テーマにとどまらず、教室全体として大きな研究目標を設け、基礎と臨床のジョイントした研究を計画するの必要を感じている。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Kobayashi N, Nagata T, Shinagawa S, Nakayama R, Kondo K, Nakayama K, Yamada H. Association between neurotrophin-3 polymorphisms and executive function in Japanese patients with amnesic mild cognitive impairment and mild Alzheimer disease. *Dement Geriatr Cogn Disord* 2012; 34(3-4): 190-7.
- 2) Kobayashi N, Nagata T, Shinagawa S, Oka N, Shimada K, Shimizu A, Tatebayashi Y, Yamada H, Nakayama K, Kondo K. Increase in the IgG avidity index due to herpes simplex virus type 1 reactivation and its relationship with cognitive function in amnesic mild cognitive impairment and Alzheimer's disease. *Biochem Biophys Res Commun* 2013; 430(3): 907-11.

- 3) Yamadera W, Chiba S, Iwashita M, Aoki R, Harada D, Sato M, Moriwaki H, Obuchi K, Ozone M, Nishino S, Itoh H, Nakayama K. Factors associated with excessive daytime sleepiness in obstructive sleep apnea syndrome under CPAP treatment. *International Journal of Clinical Medicine* 2012; 3(3) : 194-9.
 - 4) Itasaka M, Hanasawa M, Hironaka N, Miyata H, Nakayama K. Facilitation of intracranial self-stimulation behavior in rats by environmental stimuli associated with nicotine. *Physiol Behav* 2012; 107(3) : 277-82.
 - 5) Nishino S, Deguzman C, Yamadera W, Chiba S, Kanbayashi T. Neurochemistry and biomarker of narcolepsy and other primary and secondary hypersomnia. *Sleep Med Clin* 2012; 7(2) : 233-48.
 - 6) Nakamura K, Seto H, Okino S, Ono K, Ogasawara M, Shibamoto Y, Agata T, Nakayama K. Prevalence of computers around the world and depressive tendency in IT experts-A comparison with other professions. *IMJ* 2012; 19(3) : 186-7.
 - 7) 渡邊友弥, 忽滑谷和孝, 中山和彦. 無床総合病院精神科におけるうつ病治療の現状 CGIを用いた治療成績. *精神医* 2012; 54(12) : 1243-7.
 - 8) 中村晃士, 鈴木優一, 山尾あゆみ, 加藤英里, 瀬戸光, 沖野慎治, 小野和哉, 中山和彦. 家族内葛藤の調整役に起こった心因性難聴の意味. *女性心身医* 2012; 17(1) : 121-5.
 - 9) 中山和彦. 森田療法と禪. *駒沢大心理臨研* 2012; 11 : 10-4.
 - 10) 中山和彦. てんかんが語る脳内物語 けいれんする生命. *精神誌* 2012; 114(7) : 835-43.
- 学の役割. *耳鼻展望* 2012; 55(4) : 241-7.
- 6) 小曾根基裕, 青木 亮, 伊藤 洋. 【Eszopicloneの基礎と臨床】総論 不眠症治療のストラテジー. *睡眠医療* 2012; 6(増刊) : 130-6.
 - 7) 中山和彦. Part 2. うつ病の病態生理とミルタザピンの臨床薬理 1. うつ病における5-HT受容体機能とアドレナリン α 1受容体機能の役割. 小山 司(北海道大学), 樋口輝彦(国立精神・神経医療研究センター)編. *ミルタザピンのすべて*. 東京: 先端医学社, 2012. p.34-40.
 - 8) 中村晃士. 【パラノイアと妄想性障害】妄想性パーソナリティ障害の臨床. *臨床精神医学* 2013; 42(1) : 57-61.
 - 9) 宮田久嗣, 須江洋成, 山寺 亘, 中山和彦. 【被災地でのメンタル支援】福島県北部における”こころのケア”の活動報告. *外来精神医療* 2012; 12(1) : 13-6.
 - 10) 中山和彦. 東京慈恵会医科大学創立130年を記念して東京慈恵会の成立を探る それを支えた慈恵・維新の志士達. *慈恵医大誌* 2012; 127(5) : 179-202.

III. 学会発表

II. 総 説

- 1) 忽滑谷和孝, 真鍋貴子, 落合結介. 【気分障害の治療ガイドライン新訂版】(第2章) 診断と検査 鑑別すべき状態像 アパシー, 無為, 低活動型せん妄など. *精神科治療* 2012; 27(増刊) : 41-7.
- 2) 宮田久嗣. 外来診療におけるパーソナル・アゴニストの使い方を学ぶ. *東京精神神経科診療所協会誌* 2013; 13 : 40-7.
- 3) 小曾根基裕, 黒田彩子, 青木公義, 守屋達一郎, 岩下正幸, 沖野慎治, 中山和彦, 中田浩二. Functional dyspepsiaにおける心理社会的要因の特徴について複数の心理テストを用いた詳細な検討. *消化器心身医* 2012; 19(1) : 9-13.
- 4) 宮田久嗣. 【高齢者と脳内神経伝達機能】高齢者の神経伝達機能を考慮したグルタミン酸薬物による治療. *老年精医誌* 2012; 23(8) : 959-64.
- 5) 山寺 亘. 睡眠関連呼吸障害の医療における精神医
- 1) 落合結介, 石井洵平, 岡部 究, 齋藤健一郎, 小堀聡久, 青木 亮, 森田道明, 津村麻紀, 古川はるこ, 忽滑谷和孝, 中山和彦. 先行する発熱エピソード後に視神経脊髄炎と診断された1症例. 第17回千葉総合病院精神科研究会. 浦安, 4月.
- 2) 忽滑谷和孝, 古川はるこ, 石井洵平, 永田智行, 真鍋貴子, 落合結介, 伊藤達彦, 笠原洋勇, 中山和彦. 認知症の介護負担となる認知症の周辺症状とその影響する因子について. 第25回日本総合病院精神医学会総会. 東京, 11月.
- 3) 中村晃士, 鈴木優一, 山尾あゆみ, 加藤英里, 瀬戸光, 沖野慎治, 小野和哉, 中山和彦. 広汎性発達障害にみられる社会不安障害の特徴-森田神経質にみられる対人恐怖症との比較-. 第108回日本精神神経学会学術総会. 札幌, 5月.
- 4) 中村晃士, 杉原亮太, 鈴木優一, 山尾あゆみ, 瀬戸光, 沖野慎治, 小野和哉, 中山和彦. 境界性パーソナリティ障害と自殺. 第36回日本自殺予防学会総会. 東京, 9月.
- 5) 小曾根基裕. 睡眠障害の客観的マーカーとしてCyclic alternating pattern (CAP)を用いて評価した精神生理学的不眠症に対する抑肝散の効果. 第13回愛宕漢方医学研究会. 東京, 10月.
- 6) 小林伸行, 鈴木 豪^{1,2)}, 徳野慎一²⁾, 山本泰輔²⁾, 波多野弁¹⁾(¹⁾陸上自衛隊), 清水昭宏, 嶋田和也, 立花正一²⁾(²⁾防衛医科大学校), 近藤一博. 疲労・ストレスによるヒトヘルペスウイルス(HHV-)6, 7再活性化機構の検討. 第60回日本ウイルス学会学術集会.

大阪, 11月.

- 7) 中村晃士, 杉原亮太, 鈴木優一, 山尾あゆみ, 尾作恵理, 瀬戸 光, 沖野慎治, 小野和哉, 中山和彦. 休職を人生に生かすー長期休職に至った患者の復職に関するアンケート調査からー. 第32回日本社会精神医学会. 熊本, 3月.
- 8) 湯澤美菜, 平林万紀彦, 沖野慎治, 中村晃士, 小野和哉, 中山和彦. 壮年期の危機を前景とした疼痛性障害の一例. 第32回日本社会精神医学会. 熊本, 3月.
- 9) Okino S, Nakamura K, Yuzawa M, Sugihara R, Suzuki Y, Yamao A, Seto H, Osaku E, Ono K, Nakayama K. The attentional function in schizophrenia as an objective measure. 5th International Conference of Schizophrenia (IconS V). Chennai, Sept.
- 10) Nakamura K, Okino S, Yuzawa M, Sugihara R, Suzuki Y, Yamao A, Seto H, Osaku E, Ono K, Nakayama. Attentional function in pervasive developmental disorder compared with schizophrenia. 5th International Conference of Schizophrenia (IconS V). Chennai, Sept.
- 11) 湯澤美菜, 中村晃士, 真鍋貴子, 小曾根基裕, 小野和哉, 中山和彦. 自我同一性の危機により亜昏迷状態を呈した17歳女子の一例. 第108回日本精神神経学会学術総会. 札幌, 5月.
- 12) 中村晃士. 境界性パーソナリティ障害女性 16年間の治療経過を振り返って. 第12回臨床精神病理ワークショップ. 東京, 2月.
- 13) 齋藤貴之, 中山和彦, 忽滑谷和孝, 伊藤達彦, 真鍋貴子. 不眠, 不安を呈した重症筋無力症クリーゼの一例ー症例向精神薬選択に関する一考察ー. 第25回日本総合病院精神医学会総会. 東京, 11月.
- 14) 塚原準二, 湯澤美菜, 稲村圭亮, 小堀聡久, 落合結介, 森田道明, 小川佳那, 古川はるこ, 忽滑谷和孝, 笠原洋勇. 高齢者脳波検査の意義について. 第57回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 3月.
- 15) 塚原準二, 湯澤美菜, 岩下正幸, 齋藤健一郎, 稲村圭亮, 小堀聡久, 永田智行, 落合結介, 青木公義, 森田道明, 顥原禎人, 小川佳那, 古川はるこ, 忽滑谷和孝, 笠原洋勇. 高齢者における脳波検査の意義について. 第47回成医会柏支部例会. 柏, 12月.
- 16) 小堀聡久, 石井洵平, 岡部 究, 齋藤健一郎, 尾作恵理, 永田智行, 青木 亮, 落合結介, 青木公義, 森田道明, 顥原禎人, 津村麻紀, 古川はるこ, 忽滑谷和孝, 笠原洋勇. 精神科無床の総合病院における休日・夜間の精神科救急医療の現状について. 第46回成医会柏支部例会. 柏, 7月.

史 (理化学研究所), 不安・抑うつ臨床研究会編. 躁うつ病はここまでわかった: 患者・家族のための双極性障害ガイド. 第2版. 東京: 日本評論社, 2012. p.55-87.

IV. 著 書

- 1) 忽滑谷和孝. 躁うつ病の心理社会的治療. 加藤忠